

# Handsome

1997.6 No.120

発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 松本 啓 編集責任者 柴谷 政司 印刷所 東京印刷(株)

**FRESH  
POWER!!**

## 次年度執行部 人事決まる!

5月15日ホテルサルート米子において行われた臨時総会で、次年度の執行部役員が選任され、全員一致をもって可決承認された。臨時総会においては、赤石副会長の威勢の良い議事進行のもと、小原次年度会長により次年度委員長（理事）候補者が指名され、承認後、そのフレッシュな顔ぶれが壇上に並んだ。全員がまだ委員長経験が無いとのことであるが、そのことが意外であるくらい今までの中央会活動でおおきな役割を果たしてきた人たちがばかりである。例会前に「否認されるんじゃ…」などと謙遜とも緊張ともとれることを言っている次年度理事もいたが、なにが、なにが。皆さん、頼りにしてますよ!

この臨時総会に先立って、とある次年度理事（そのときは候補!）に「担当委員会は何委員会だ?」と質問しました。するとその理事候補は、こう言いました。「実は、自分も気になって小原次年度会長に自分の委員会のことを聞いたんだ。すると小原会長は、「お前は何を考えているんだ!この次の臨時総会をもって理事が決まるのだぞ! 承認もされていないのに軽々しくそんなことが話せるか!」と怒られてしまった。」とっていました。

ウーム、さすが!! 会長になる人の発言はすごい!! 記者も恐れ入ると同時に軽々しく質問した自分が恥ずかしく思えてきました。また、小原次年度会長の中央会にかける意気込みと情熱を感じました。

松本丸もゴールラインまであと一息! その松本会長がわたす襷は、小原丸によって力強く、そして手堅く受け継がれていくことでしょう。

会長



小原 得雄

直前会長



松本 啓

副会長



問 真希夫



足立 聡



堀田 收



土井 一朗



山本 良文

監事



宮廻 裕和



野島 功



景川 恭次

理事



松本 弘志



角田 祐司



長谷川 郁



山中 隆司



大野木 昭夫



小林 慎一



安部 利夫



北野 実



山本 泰彦

次年度県出向役員推薦決定



秋田 導秀  
(県会長)



渡部 光典  
(監事)



岩田 慎介  
(理事)



谷口 勉  
(理事)



桑垣 英二  
(理事)

# 5月例会報告

5月15日(木) ホテルサンルート米子にて5月例会が開催された。綱領唱和、松本会長あいさつの後、恩部、前田、伊藤、松本新入会員のバッジ授与式、自己紹介が行われ、それぞれ入会に当たっての抱負をのべて頂いた。連絡・報告事項の後、引続き臨時総会が行われ、司会の山本会員より議長の指名を受けた赤石副会長によって、議事が進行された。第一号議案の理事・幹事・出向役員の承認について、小原次年度会長より会員の紹介があり、全員一致で承認された。次に、第二号議案の夢みなと博協賛事業における特別会費徴収について、松本会長より特別会費のお願いと徴収方法の説明があり、全員一致で承認された。臨時総会終了後、夢みなと博覧会衛星中継進行状況の報告が行われた。目次委員長より挨拶・企画説明が行われ、その中で『PR・情報発信を目的とした企画であり、地域のイベントを中央会及び会員の手で行う』と力説された。概要・主旨・システム説明・構成案等の発表



後、VTR班による試写が行われた。

●湯原組による鳥取県の紹介を中心としたVTR—大山の四季の姿を中心とした、観光地・祭り等のイベントが盛り込まれており、空中撮影も含め迫力のある映像であった。

●戸野組による夢みなと博覧会パビリオン紹介VTR—建設中の会場より各施設の紹介・説明があり、完成後会場からの本番がとても楽しみである。



●釜田組による中央会活動の紹介VTR—役員会・例会・委員会・各イベント等の映像であり、番組でどのように構成・編集されるのか、とても大変な作業になりますが我々中央会の為、がんばって頂きたい。続いて山陰夢みなと博覧会衛星生中継の特別委員会のメンバー紹介があり、同委員長の松本会長より挨拶があった。

質疑応答の後、赤石副会長より締めめの挨拶があり『夢みなと博から何を得るかではなく、中央会として何ができるか?を考え、全員一丸となり必ず成功させたい。』と、熱く語られた。



## 山陰・夢みなと博覧会衛星生中継進捗状況報告

### 高知県中小企業団体青年協議会 2元中継参加決定!

地域ビジョン委員会

かねてより交渉中の2元中継の受け入れ先が、高知県中小企業団体青年協議会に決まりました。

今回の西部青年中央会の趣旨に理解賛同して頂き全面的な協力、バックアップを頂きました。8月3日の本番当日には、高知市内からよさこい祭を控えお祭りムードで盛り上がる様子と、会員によるお国自慢の品々を紹介する予定です。そして、高知の技術プロダクションとのシステマ的な打ち合わせも順調に進行しております。

また5月15日には、夢みなと博覧会衛星中継特別委員会の初会合を行い、現在組織、役割分担等具体的な作業に取りかかり始めました。

前述しました様に高知は初の試みと言う事で大変な盛り上がりです。私達も更なる団結を持ち、頑張っていきたいと思っております。

つきましては、鳥取県のお国自慢のコーナーで紹介する品々を会員の皆様から募集して行きたいと思っております。

詳しくは各委員長を通じ御説明させていただきます。

博覧会まであと1ヶ月余り。

この企画もいよいよ現実のものとなる日が近づいてまいりました。各方面からも熱い期待が寄せられています。会員の皆様には今後より一層の御協力のほど宜しくお願いいたします。

# 5月度委員会報告

## 政治行政委員会

平成9年5月7日(水) 於：大連 出席者/11名  
 内容/1. 役員会報告  
 2. 茨城県ひたちなか市視察報告  
 視察に行った里道委員長、秋田、和田委員より合併に至った経緯について詳しい報告があった。

## 地域ビジョン委員会

平成9年5月7日(木) 於：米子食品会館 出席者/12名  
 13日(火) 於：みどり幼稚園 出席者/12名  
 内容/5月担当例会についての打合わせ

## 経済委員会

平成9年5月23日(金) 於：米子食品会館 出席者/12名  
 講師/米子市経済部商工課流通団地推進室 室長 小村満氏  
 内容/今回は米子インターチェンジのそばに出来る米子流通業務団地の計画概要と現状について室長の小村満氏に伺った。  
 流通団地は総事業費80億円、面積31haの大事業であるが、今後の流通業を考えると、一日も早い完成が待たれる。この流通団地が米子市を山陰の物流基地の中心として今後の発展や雇用の鍵をにぎっている。との事で中央会の皆さんも協力をお願いしたいとの事であった。

## 経営委員会

平成9年5月9日(金) 於：米子食品会館 出席者/10名  
 内容/講師先生にホテルアジュンダ、多羅尾社長を招いて「今後の経済と株の動向について」お話を聞いた。  
 内容については、「他言無用」と先生より口止めされており、ここに書くことは出来ないが、今年8月、12月頃株価によつては、企業倒産があり得る。そして、業績を問わず「特化」一(独創的経営戦略)することが、今後の生き残りのポイントとなるだろうと締め括られた。

## 情報メディア委員会

平成9年5月16日(木) 於：米子食品会館 出席者/9名  
 内容/「例会」「委員会」への目標出席率100%を目指し、残り二ヶ月頑張ろう。  
 今回は、地域ビジョン委員会委員長の目次氏をアドバイザーに迎え「パブリックアクセスチャンネル中央会収録」について話し合う。

## 指導力開発委員会

平成9年5月9日(金) 於：米子食品会館 出席者/8名  
 内容/5月委員会は実質的には最終の委員会となった。なぜならば6月の委員会は異国文化にふれる為、済州島の焼肉やさんで開催される予定だからだ。  
 次年度会長と会長経験者をオブザーバーに迎え、指導力とは何たるかをキムチを食しながら語りあかす会になりそうだが?  
 当委員会には松岡両卒業生がおり、最終委員会にふさわしく、両氏に指導力とは何かを語っていただいた後、年間の感想を各委員と語り合った。

## 社会・文化委員会

平成9年5月19日(月) 於：米子食品会館 出席者/9名  
 内容/1. 役員会報告  
 2. 女性問題「働く女性」まとめ  
 これからの新入社員(女性)について自覚、責任等を早く持てるよう指導。  
 旧社員と早くとけこめれるよう、コミュニケーションのもてるレクリエーションなどを開く。  
 まだまだ話し合えば、意見など色々出ると思います。この問題について、またいつか話し合える時がほしいと思います。

## 総務委員会

平成9年5月14日(水) 於：千鳥苑 出席者/18名  
 内容/1. 役員会報告  
 2. 新入会員入会の件  
 3. 6月担当例会の件  
 4. 6月打ち上げ委員会の件  
 3. その他

## 広報委員会

平成9年5月7日(水) 於：米子食品会館 出席者/14名  
 内容/○役員会報告  
 ○6月ハンサム編成会議  
 ○委員会報告書作成の件

# 委員会対抗 ボウリング 大会(結果)

### チーム成績(人数点含む)

|    |           |        |
|----|-----------|--------|
| 優勝 | 総務委員会     | 8,877点 |
| 2位 | 情報メディア委員会 | 8,540点 |
| 3位 | 政治行政委員会   | 8,378点 |
| 4位 | 社会文化委員会   | 8,258点 |
| 5位 | 経済委員会     | 7,964点 |
| 6位 | 地域ビジョン委員会 | 7,829点 |
| 7位 | 広報委員会     | 7,453点 |
| 8位 | 経営委員会     | 7,150点 |
| 9位 | 指導力開発委員会  | 4,364点 |

### 個人成績(ハイゲーム)

|    |       |      |
|----|-------|------|
| 優勝 | 大田 修一 | 366点 |
| 2位 | 浜 徳正  | 363点 |
| 3位 | 和田 健二 | 361点 |

### 個人成績(総合得点)

|    |       |      |
|----|-------|------|
| 優勝 | 野嶋 功  | 948点 |
| 2位 | 音田 猛  | 930点 |
| 3位 | 大田 修一 | 925点 |

コピーをして名簿にお貼り下さい

# Challenge 大山初登頂!

西部青年中央会山岳隊

7月31日午前11時30分、我西部青年中央会山岳隊の4人の隊員は、大山北西ルートからの頂上アタックに成功しました。青年中央会からとしては、初の中国地方の最高峰大山無酸素登頂への素晴らしい感動のドキュメントを報告させていただきます。

今回のこの企画の話が出たのは、今から約半年前のハンサム編集会議、「Challenge」のコーナーに記事がないぞと言うことで話が始まり、その後、忘年例会の「ハンマブライス」の目玉商品になり冬山登山の予定で準備を進めていましたが、諸事情が重なり(本当は冬山が怖かった)結局春山登山になってしまった。この3ヶ月間は、まわりの会員からいつになったら大山登山の記事がハンサムに出るのだと言われ続け、早く登らなければと言う気持ちの半面、えらいな、たぎだなどと言う気持ちが強くなる一方でした。早くしないと年度が変わってしまう、夏山登山は暑くなるので5月31日に決定しました。



今回の頂上アタック隊のメンバーは、忘年例会で見事にだまされてお金を出して大山登山の権利を買われた釜田隊長(35才)、山陰・夢みなと博の取材を兼ねて地域ビジョン委員会委員長の目次隊長(43才)、ハンサムの取材で広報委員会の野川隊長(32才)、そして、この企画の提案者である私安藤(40才)の平均年齢37.5才の西部青年

中央会の生え抜きの4人で挑むことになりました。5月31日、朝8時に大山夏山登山道入口を出発した頂上アタック隊は、1合目までは順調に昇って行きましたが(1合目まで!)その後は、この書面では十分に書き表わすことが出来ない過酷な戦いでした。2合目あたりから各隊員の口からは「こんでもよかった」「えらい」「やめて帰えらいや」と愚痴しか出なくなり、こんなにも大山登山はきついのかと思うばかりでした。出発した頃は登山者達も少なかったけれど時が経つにつれて登られる人達が多くなり(私達を追い越して行く人達)「こんにちは」の言葉すら言うことが出来ない状態でした。特に6合目から8合目にかけての登山道は、本当にきつくほとんど斜面を這って登りました。この夏山登山道は、小、中学校の大山登山のルートですが、中央会の会員の皆様、このルートを甘く考えてはいけません。本当にきついのです。小、中学生は身も軽しい、タバコも吸っていません。そして、いつも運動をしています、だから出来るのです。朝日町のビルの3階位の店にエレベーターがなかなかなくて階段を上がり息を切らしたお父さん。大山はそんなものではありません320階位のビルを階段で登らないと頂上には上がれないのです。どうにか予定時間を1時間オーバーしながらも11時30分全員無事登頂。頂上はガスにつつまれ、時々しか下界は見えませんでした。さわやかな風と大山キャラボクの美しい姿は、今までの苦労を一瞬の内に消しさり登山に成功したことの感動で胸が一杯になりました。



この2年間のハンサムの取材の中には、ラグビーをしたり、自転車にのったり、ボートレースに参加したりと体力を使う取材が数多くあったと思いますが、今回のこの取材が今までのハンサムの中では一番過酷な取材ではなかろうかと思えます。そもそも、青年中央会の会員が大山に登ると言うことは日本山岳協会のベテランが真冬のエベレストに登ることに匹敵する位すごいことです。

最後になりましたが、奥さんが心配して遭難用のカンバンまで準備された釜田隊長、登山中も携帯電話が鳴りっぱなしで、頂上に着くまでには商談を成立、やはり仕事人間ですね。若く見えるが実は43才の目次委員長。重いカメラを持ちながらの登山は大変でしたね。下りの時は膝が笑えばなしでしたね。流石弱冠32才、タバコも吸わないスポーツジムにも通っている野川会員元一杯でしたね。先に上がっては、なかなか上がってこない私達が心配で何度も下まで降りてこられましたね。そして、月に1度の最終金曜日の夜のお務めをキャンセルして体力を温存して大山登山に挑んだ私。西部青年中央会の4人の勇士、本当に御苦勞様でした。

## 聞いてごしない Part 10

昭和48年2月、当時雪不足の中、大山で初めての国民体育大会冬季大会スキー競技会が開催された。豪円山には70M級のジャンプ台が建設され、競技では、同じ年のサッポロオリンピック70M級純飛躍競技で金・銀・銅メダルを独占し『日の丸飛行隊』の異名を取った笠谷幸生選手が世界的なトップジャンパーが華麗な飛行を見せ、観客を魅了しテレビの前の視聴者を釘付けにした。このジャンプ台はその後一度も使われる事無く昭和54年に足組みの老朽化を理由に解体された。

平成5年、再びこの大山で第48回の国体が開催される事になり、前回の大会と同じ豪円山の同じ場所に、ふるさとづくり特別対策事業とし総工費6億7千万円をかけ、当時としては全国的にも屈指の施設内容を誇る全日本スキー連盟A級公認大山ジャンツェ(ノーマルヒル)が平成3年11月に完成した。平成4年2月、大山国体のリハーサルを兼ね、全国高等学校スキー選手権がこの地で開催され、翌年の2月の国体で20年ぶりに『日の丸飛行隊』がK点越え続出の華麗なジャンプを披露し、選手の口々から、「飛びやすく立派なジャンツェ」と評価を得た。この国体から4年以上が経過したが、あれから一度もこのジャンプ台は使用されていない。

国体が終わってからジャンプ台が利用されないのには、2つの理由がある。1つは、此の鳥取の地でノーマルヒルのジャンプ競技を開催しても、地元には飛べる選手はいないし、北海道や東北を転戦しているトップクラスの選手は遠方のこの地まで遠征してくれそうもない。2つ目の理由は大会を開催する為には多額の費用がかかるという事である。(ジャンプ台は、数日前から80~100人のスタッフで準備・整備していかなければならない。)つまり、このジャンプ台で年に一度大会を開催し、大勢のジャンパーに飛んでもらう為には、何度か自力で競技の実績を造りSAJ(全日本スキー連盟)から大会の公認を取り付けるか、費用を調達し招待選手を招き、メジャーな大会に育てていくしかないのであるが、いずれにしても多額の費用がかかるのである。鳥取県スキー連盟には、ジャンプ競技を運営する人材はあっても、この費用を捻出する余力は無く、とりあえず選手層の厚いアルペンやクロスカントリー以外の競技には積極的ではない。ジャンプ台施設の持ち主である大山町は、設備の維持費を出して競技を実現しても、地域の活性化や知名度アップ等のメリットは出費にみあわないと考ええる。連盟からジャンプ台をサマージャンプ台にして夏でも練習出来るようにと町へ提案も出たが、『選手育成が先か、設備が先か』で話は交差しない。

今でも、大山豪円山のシンボルとしてその勇士を見せている大山ジャンツェ。このジャンプ台も以前のジャンプ台の様に老朽化していくのを待つだけなのであろうか。

### 6月例会案内

とき 6月16日(月) PM 6:30~  
 ところ 米子国際ホテル  
 内容 ○現委員長の活動報告  
       ○新委員長の抱負  
       ○ボウリング大会表彰式  
       ○皆生トライアスロンに関して  
 担当 総務委員会  
 ※出席の有無を返信ハガキにてご回答下さい。

### 6月役員会報告

6月定例役員会が6月2日(月)、米子食品会館に於いて開催された。  
 当日の主な議題は、次の通りです。  
 (1) 委員会報告書作成の件  
 (2) 名簿作成の件  
 (3) 収支見込みの件  
 (4) 6月例会・総会開催の件  
 (5) その他  
 ※尚、詳細については、各委員長までご照会下さい。

### 編集後記

今年度も、残すところ一月足らず。次年度役員の皆さんは、事業計画の検討に余念が無いものと思います。

この時期、緊張の糸がほぐれつつあるのが、各委員会を引っ張ってこられた委員長の方々。年度替わりには、行事が目白押しですが、委員会活動報告書の締切がありますことをお忘れなく。